「銀座書斎・自習室」においての学習経験

銀座書斎・自習室利用日　2019年4月3日(水) 18:00～19:00
リポート提出日　2019年4月6日(土)

英語道弟子課程 弟子・　H.K.

2019年4月3日(水) 18:00より60分間、「銀座書斎・自習室」の使用許可を賦与していただきまして、ありがとうございました。

この日に経験したことについて、リポートさせていただきます。

「銀座書斎」は朝も夜も「銀座書斎」であり、朝の銀座書斎も夜の銀座書斎も、私にとっては自然な雰囲気です。4月3日(水)も、私にとって馴れ親んでいる銀座書斎でした。

いつもと違うのは、目の前に、生井利幸先生がいないという状況の下で、60分もの時間を過ごす、ということです。

目の前には、いつも見ていたはずの多くの書籍が、さらによく見え、それを見上げたり、脇に置かれたお手紙を眺めたり、テーブルの上に置かれたお菓子、その向こうに見える絵画、数々の書籍を見て、「いつもの銀座書斎」であることを確認しました。なのに、どうしてか、「空気感」をいつもの何倍にも感じました。いつもの何倍にもスーっと澄み切っているように感じられ、「何も無い!」とその空気の中に混じりも濁りも全く無いことがはっきりと分かるほどでした。先日の東慶寺で感じた、澄みきった、清らかな、崇高な空気感でした。本当に崇高な空気でした。いつもは先生のご指導、稽古、質問を聞き漏らさないことに集中しているのでここまでじっくりと空気感を感じ、味わうことに集中するということが無かったのだと思いました。とにかく、今、東京・銀座にいる、という実感がゼロでした。その中で勉強をしていると、思いもよらぬことが起きます。というのは、自宅にいるときよりも、完全に集中し、余計な思いや考えがつい頭をよぎる、ということが微塵もありません。完全集中、と言っても、60分、ペンを止めずに走らせ続けてガリガリと勉強しているわけではなく、コーヒーをすすったり ゆっくりと感じてみたり、書籍を見上げながら そこにある空気を吸い、又、ペンを走らせ、チョコレートを味わって と、間、間、に、心のゆとりのようなものを持たせていただくのですが、そのような感じで勉強していると…文章にするのが難しいのですが、書いたこと、や、書いていることが体に染み込んでくる という実感があるのです。全く頭を使っていないのです。… 丁度、今、こんな感じだった、という例えが見つかりました。細かいミストのシャワーを浴びている、という感じでした。ミストの「微粒」にも満たない微粒、一滴にも満たない一滴は、生井利幸先生のご教授の下で学んでいることを勉強しているので、生井利幸先生、なのですが、ジワジワー、サラサラ——、と、私の頭、顔、上半身に浴び、それがじんわりと体に染み込んでいく、という感覚でした。

Date

19:00に退室したとき、「勇気を出して、本当によかった」「ああ～また来たい！」と思いました。あの空気の下で勉強が出来るのは、贅沢なことですが、本来、勉強とはそのようなことだ、と思いました。

もちろん、勉強中は、目の前に先生はいませんが、「奥の聖域」で執筆活動されているということを感じていました。完全に、今座っている位置から先生は見えません。学習者が勉強に専念できるようにしていただいていますが、先生は、ある意味で、非常に遠くにいらっしゃるのだ、と思いました。そしてある意味で、非常に近いところで学習者をこうして見守ってくださっているのだ、とも思いました。先生が、太陽のようにそこにいてくださり、この下で、大いに勉強しなさいと言われているようでした。

そのような環境の下で勉強すると、どんどん自分の体に入ってくることは間違いないです。私の場合、特に、完全に頭を使っていなかったことが自分の中に強い印象として残っています。

このたびの銀座書斎「自習室」の貸与について、使用の許可を貸与していただき、本当にありがとうございました。